

## 前回の主な論点

平成18年12月20日（水）社会資本整備審議会第5回環境部会

### 社会資本整備分野における地球温暖化対策に関して

#### ○ 総合的な施策・中長期的な対策の必要性

- ・ 国土交通省全体として、総合的な地球温暖化政策を考える必要がある。
- ・ 物流の効率化、移動の効率化という問題は、CO<sub>2</sub>削減に限らず必要な政策である。
- ・ 自転車道と公園、森林と住宅など、連関させたプロジェクトが必要。
- ・ 全部同じように総点検を行っても重点化が難しい。多くの施策の中で、施策の重みづけをはっきり意識して重点化を考える必要がある。
- ・ 地域で総合化したときにより多くのCO<sub>2</sub>削減効果があるなど、どのように地域を変えていくかという視点が必要。
- ・ 地球温暖化対策の選定にあたっては、CO<sub>2</sub>削減効果とともに、そのことを実行することによって得られるほかの便益、特に環境上の便益についても同時に考慮することによってよりよい対策となる。
- ・ 例えば、住宅におけるソーラーパネルによる電力の備蓄のような施策は、CO<sub>2</sub>削減のみならず災害時の効果もある。

#### ○ 国民へのメッセージ

- ・ 単に施策の積み上げではなく、政策の提案がないとメッセージ性に欠ける。国民に向かって訴えるものが足りない。
- ・ 地球温暖化対策は、国民がきちんと理解して協力しなければならない部分がある。生活レベルをある程度下げなければいけないというメッセージを送らない限りできないと思う。
- ・ 地球温暖化対策は、NGOや市民、商店街などの声を聞き、一般の人によくわかるようなインセンティブを与えるソフト対策を考える必要がある。例えば表彰制度など。

#### ○ 今後の進め方

- ・ 今後、当面の目標達成計画の評価・見直しの議論と、もう少し幅広い中長期の議論とを分けて行うことが適切ではないか。